2002 年電気化学秋季大会の 開催にあたって —更なる電気化学の発展を願う

佐々木幸夫

2002 年電気化学秋季大会は、平成 14 年 9 月 12 日（木）と 13 日（金）の 2 日間に亘って、東京工芸大学の厚木キャンパスで開催されます。当キャンパスは小田急小田原線の本厚木駅下車、バスで約 20 分の所にあります。バス利用の必要性から、参加される皆様には多少不便をおかけすることになりますが、大会開催中は定期バスの他に臨時バス等の用意を検討しております。東京工芸大学と申しますと、あまり馴染みのない方々もおられるかも知れませんが、簡単に紹介させて戴きます。前身は日本の写真、印刷の草分けとして開学した東京写真大学であり、昭和 52 年に名称変更し、現在工学部と芸術学部を擁する大学であります。厚木の他に東京の中野にもキャンパスがあります。厚木と言いますと、年配の方々、実は私もそうでしたが、米軍の厚木基地がある所と思っておられるかも知れません。しかし、その基地の位置する場所は今日の厚木市ではありません。厚木は古くは小江戸と呼ばれた交通要衝の地として栄えた町であり、現在の厚木市一帯は産業の中核都市として著しく発展しております。企業の研究機関も沢山あり、別名、日本のシリコンバレーとも言われております。また、名所、旧跡も多くありますので、大会に参加の折には見学されることをお奨め致します。

来る 2003 年、電気化学会は創立 70 周年を迎えますが、本学会の歴史の重み、誇りを改めて痛感している次第です。私は電気化学会のあまり古い会員ではありませんが、これまでの大会の講演で最も印象に残っているのはニッケル・水素、リチウムイオン二次電池の実用化でした。これらの二次電池が日本のハイテク技術の進展に大きく寄与したことは皆様が一致して認めるところだと思います。発明以来、150 年あるいは 100 年を経過しようとしている鉛蓄電池やニッケル・カドミウム二次電池の二次電池分野にとって、これらの電池の出現が大きなブレイクスルーになったことは否定できない事実であります。一方では、アポロ宇宙船に搭載され、日の目を見た発電装置の一種である燃料電池に再び最近大きな注目が注がれていますが、まだ解決しなければならない実用上の問題が沢山あります。いずれにしろ、地球上に生きる我々生物にとって、エネルギー問題、環境問題の解決が急務となっております。このような問題解決のために電気化学の貢献を大いに期待するものであります。

実行委員長として微力ながらも、実行委員の先生方のお力を借りて本大会を成功させたいと思っております。多くの会員の皆様の参加を心よりお願い致します。

Yukio SASAKI
2002 年電気化学秋季大会
実行委員長
東京工芸大学教授